

楽器の名称・奏法



♪バスドラム Bass Drum

- ・柔らかいヘッドのついたマレットで叩く。
- ・マレットを変えたり、ミュートをして音色を変える。



♪スネアドラム Snare Drum

- ・主にスティックで叩く。ブラシを使うこともある。
- ・シングル・ストローク（一つ打ち）、ダブル・ストローク（二つ打ち）、ロール、フラムなど様々な奏法がある。



♪クラッシュシンバル Crash Cymbal

- ・同じ形のシンバルを、2枚対向させて打ち合わせる。
- ・紐のつけ方に注意



♪サスペンディッドシンバル

Suspended Cymbal

- ・「吊るされたシンバル」という意味で本来は1枚のシンバルを吊るかホルダにゆるく固定してマレットで叩く。スタンドがなかったので写真のようになっている。
- ・ロールは1つ打ちで演奏する。
- ・with mallet と書いてあればマレットを使い、with stick と書いてあればスティックを使う。



♪ティンパニ Timpani

- ・半球形の胴体に脚がついた大型の太鼓で、皮が張られた上面を通常 2 本のマレットで叩く。
- ・ふちから 1/4~1/3 のところを叩く。
- ・ロールは一つ打ちで演奏する。スネアのロールとは全く違うので注意する。
- ・マレットを変えて音色を変える。
- ・小さい方から 23 インチ、26 インチ、29 インチ、32 インチ。
- ・ペダルで音程を変える。
- ・絶対に上にものを乗せない。
- ・片付ける時、柔らかい布でヘッドを拭く。
- ・部器具庫などにしまう時は、革をゆるませ（ペダルを下げる）、トラックなどで運搬するときには革を張る（ペダルを踏み込む）。

※殆どの皮物類(皮を張った太鼓)は、その楽器の固定ピッチを変えたり、皮全体のピッチが均一でなくなった時に、チューニングキーを使ってピッチを調整する必要がある。



♪ティンパニ椅子

- ・ティンパニを演奏する時に使う（任意）。
- ・下図参照





♪シロフォン Xylophone

- ・マレットで叩いて演奏する。
- ・マレットを変えて音色を変える。
- ・片手に1本ずつ、合計2本で演奏する。
- ・ルーツはアフリカ。大きさの違う木の棒を並べて、棒を叩いたときによく響くように、棒の下にひょうたんをつけたのが始まり。その後ヨーロッパで発達した。
- ・こまめにクロス等でから拭きする。



♪グロッケンシュピール Glockenspiel
Bells Glock Glsp Camp

- ・マレットで叩く。
- ・マレットを変えて音色を変える。
- ・片付ける時、柔らかい布で鍵盤を拭く。。



♪マリンバ Marimba

- ・マレットで叩いて演奏する。
- ・マレットを変えて音色を変える。
- ・シロフォンよりも鍵盤が広く厚く造られており、深みのある音色を表現できる。
- ・4オクターブの音が出る。
- ・マレット2本~4本で演奏されることが多いが、特殊な楽曲によっては6本や8本を必要とする場合もある。
- ・シロフォンと同様、ルーツはアフリカ。その後南米で発達した。
- ・こまめにクロス等でから拭きする。



♪ヴィブラフォン Vibraphone

- ・ペダルを踏み、マレットで叩いて演奏する。
- ・マレットを変えて音色を変える。
- ・共鳴管の上端に丸いはねを設置し、このはねを電気モーターによって回転させることにより、ヴィブラートを掛けることができる。
- ・2~4本のマレットで演奏する。
- ・コントラバスの弓で演奏する特別な奏法がある。
- ・片付ける時、柔らかい布で鍵盤を拭く。
- ※鍵盤楽器の上にもものは絶対に乗せない。



k

♪チャイム Chimes チューブラーベル
Tubular bells

- ・音域は中央八から上へ1オクターブ半ほど。
- ・管の上部を専用のハンマーを1本か2本用いて打鍵する。
- ・専用のスタンドに吊り下げた状態で演奏するが、単音が必要な場合には1本をスタンドから外し、片手で吊り下げて演奏することも可能。
- ・専用スタンドの下部にはペダル式のダンパーがあり、これを利用して余韻を調節することができる。手で持って演奏する場合は手で余韻を止める。



♪サウンドブロック Sound Block

- ・優しく美しい音が響く。
- ・鍵盤が外れる。
- ・付属のコードホルダー（右下の白いもの）に単音を3つセットしてトリプルマレットで叩くと和音を演奏できる。



♪トムトム Tom-tom タム タムタム

- ・響き線のない中型のドラム。
- ・主にスティックで叩く。
- ・タムタム (Tam-tam) と区別する。



- ♪銅鑼 Gong タムタム Tam-tam
- ・タムタムは中国を起源としていて、ゴングはインドを起源としている。
 - ・タムタムは銅 80%、スズ 20%の青銅によって作られている。
 - ・一般的には、大きめの太いマレットで叩く。
 - ・音をとめるときはマレットを回して磨くようにしたり、手や、場合によっては身体全体を使う。
 - ・似た名前の楽器に太鼓の一種のトムトム (Tom-tom) があるので注意する。



- ♪ウッドブロック Wood Block
- ・木魚が楽器として変化したものとされる。
 - ・マレットやスティックで叩く。



- ♪木魚 空魚
- ・マレットで叩く。
 - ・2個から5個を一組に使用する場合が多い。
 - ・高音で堅く鋭い音色のウッドブロックに比べると、木魚は柔らかく響きもふくよかである。



- ♪テンブルブロック Temple Block
- ・木魚を起源とする西洋の打楽器。
 - ・音階を感じる事ができる。
 - ・4、5個程度を音高順に並べ、マレットで叩く。
 - ・スタンドは何でもよい。写真ではティンパレスのスタンドを使用した。



- ♪スリットドラム Slit Drum
 ログドラム Log Drum
- ・大きいものほど音が低くなる。
 - ・マレットやスティックで叩く。



- ♪トライアングル Triangle
- ・ビーターで叩いて音を出す。
 - ・ビーターの太さや、打つ位置等によって音色を変える。
 - ・音符の上に○が上についているときは楽器に触れず持ち手のみを持って叩き、音符の上に+がついているときは手で楽器をミュートして叩く。



- ♪カスターネット Castanets
- ・スペインで発達した楽器
 - ・語源はスペイン語で『栗』という意味の『カスターニャ』(castaña)という単語。・音程がわずかに異なる2つの楽器を一組として演奏する。
 - ・高い方の楽器を右手で持つ。音程の高い方は「雌」、音程の低い方は「雄」と呼ばれ、両者を見分けるために「雌」のひもの通し穴付近には目印の切れ込みが入れられている。
 - ・紐の方をもって、ひざに打ちつけて演奏する。



- ♪トライアングルスタンド
- ・楽器の移動などで、手で持って演奏するのが難しい場合、吊るして使う。



♪ 鈴 Bell Sleigh Bells

- ・片方の手で柄を下向きに持って、もう一方の手で持った柄の部分を押く。
- ・ロールは柄を持って左右に振る。
- ・両端付近を両手で持って激しく振って音を出したり、色々奏法がある。



♪ タクシーホーン Taxi Horn

- ・いわゆるパフパフ。
- ・黒いところを押して鳴らす。



♪ ハーモニックパイプ Harmonic Pipe

- ・振り回して演奏する。
- ・振り回す速さによって音程が変わる。
- ・E s Dur の倍音が出る。



♪ フィンガーシンバル Finger Cymbals

- ・指に付ける小型のシンバル。
- ・音楽奏者は、普通 2 枚一組で使い、片手に一枚ずつ、親指と人差し指で紐の部分をつまみ、円の縁を打ち合わせる。
- ・ダンサーが用いる場合は、通常 4 枚一組で使い、片手に 2 枚一組ずつ、フラメンコで用いられるようなカスタネットのように打ち鳴らす。



- ♪ オーシャンドラム Ocean Drum
サーフドラム Surf Drum
- ・波の音を再現した擬音楽器。
 - ・傾けたり、揺らしたり、振ったりして音を出す。
 - ・手で叩いたり、マレットで叩くこともある。



- ♪ 三板
- ・沖縄の民族楽器。
 - ・左手で持つ（下図参照）



- ♪ ウィンドチャイム Wind Chimes
マークツリー Mark Tree
- ・ピーターを使って鳴らす。
 - ・鳴らした後は指定の無い時はとめる。



- ・軽く「八」の字になるように持つ。



- ・左手は、親指と小指で三板の両端を挟むようにして叩く。
- ・右手で、小指から親指まで順にパラパラと叩く。はじくような感じで（トレモロ）。



♪ チャンチキ 摺鉦 (すりがね)

- ・ 撞木 (しゅもく) と呼ばれる、先端に鹿の角のついた棒で皿の内側を叩く。
- ・ グロッケンのマレットで代用することが多い。
- ・ 紐で吊るすか杵や柄をつけてそのまま打つ。
- ・ 左手に直接持って指で音色を変えながら打つ。この場合、皿のふちを叩くか、中央部分を叩く。
- ・ 小物台に置いて音がこもらない様に片側を持ち上げ、両手で叩くと、複雑な音型もクリアできる。



♪ タンバリン タンブリン Tambourine

- ・ 胴に小さなシンバルを付けた極めて浅い小型の片面太鼓。
- ・ タンバリンの動きによってシンバルが打ち合わされるようになっている。
- ・ 手に持って叩く奏法が最も一般的。指、拳、手のひらで叩くほか、膝に打ち付ける、振ってシンバル部を鳴らす、鼓面のふちにそって鼓面をこする、スティックで叩くなど様々な鳴らし方がある。
- ・ 革がゆるんだらドライヤーで乾かすとよい。
- ・ 胴に開いている穴は、かつてそこに鈴が付いていた頃の名残であり、指を入れるための穴ではない。この穴に親指を入れて演奏を行うと、指の骨を折る可能性がある。



♪ ラチェット Ratchet

- ・ 手で持って、歯車をハンドルで回して音を出す (ハンドル式)。
- ・ ハンドルをつかんで全体を振り回すものもある (振り回し式)。



♪ サイレン Siren

- ・ ハンドルを回して音を出す。
- ・ 遊びでやっているとなにかあったと思われるので注意する。



♪ ヴィブラスラップ Vibraslap

- ・ L字形の底部を片手で持ち、おもりを手で叩くか膝などにおもりを打ち付けて演奏する。



♪ スライドホイッスル Slide Whistle

- ・ 高い音から低い音へ、低い音から高い音へ段階なしに音を出すことができる。
- ・ スライドを上下に滑らせ、(グリッサンド)演奏する。



♪ ホイッスル Whistle

- ・ 吹いて演奏する。
- ・ 中の球がくっついてしまわないように、演奏前には軽く振っておく。



♪ ウィップ むち Whip Slapstick

- ・ 両手で挟むように打ちならす。
- ・ 学校にあるのは手打ち式ムチ。
- ・ ルーテ (ムチ) とは違う。



♪ 水笛 Water Whistle

- ・ コップに水を入れ、先に水をつけて吹く。
- ・ 鳥がびよびよ鳴いているような音がする。



♪ケンガリ

- ・ 韓国の小型のドラ。
- ・ 左手に楽器を持ち右手に木製のバチを持って、ケンガリの裏に指を押し引きして、強弱をつけながら演奏する。
- ・ サムルノリと呼ばれる韓国の打楽器アンサンブルに使われる。
- ・ 音は空に轟く雷を、形は星を表す小さいドラ。



♪チン

- ・ サムルノリと呼ばれる韓国の打楽器アンサンブルに使われる。
- ・ 音は静かな場所に吹き抜ける風を、形は太陽を表す金属製のドラ。
- ・ 低く余韻の長い音が魅力。
- ・ ケンガリと対照的に低く厚みのある音を出す。
- ・ 真中をやわらかく押す感じで打つことによって音が割れず、雌状な音を出す。



♪カシシ Caxixi

- ・ ブラジルの楽器。
- ・ 振って演奏する。
- ・ ビリンバウと一緒に演奏される。



♪クイーカ Cuíca Cuíga

- ・ ブラジルの楽器。
- ・ 内側中央に竹ひごがあり、それを濡らした布でこすり、振動させてよって音を出す（下図）。



- ・ 左手の人差し指と中指でヘッドを押す感じで、ヘッドの張り具合を変えて音の高さを変える。



♪メタルギロ ギラ Metal Guiro
シェイカー Shaker

◎メタルギロとして使う時

- ・効き手でスティックを持ち、もう片方の手でギロを下から包むように持つ。
- ・持ち方は、肘を直角に曲げて掌を上向けたら、腕に沿うようにギロを構える。中心を持つのではなく、頭のほうを持って腕全体でギロを支えるイメージ。
- ・スティックの腹で凹凸を往復する、スティックの先端で凹凸をひっかきながら往復した後、素早く腹で「ジャッジャッ」と鳴らす奏法がある。

◎シェイカーとして使う時

- ・ブラジルの楽器
- ・正式名はガンザ。
- ・元々は大きなサヤエンドウが乾燥したものを使っていたらしい。
- ・手のひらが自分の方を向くようにして楽器を横に持ち、前後に振って演奏する。
- ・トレモロ奏法もある。
- ・特殊な演奏方法として、シェイカー自体を膜鳴楽器のバチとして使用することがある。



♪アゴゴ Agogô

- ・ブラジルの楽器。
- ・基本スティックで叩く。
- ・スタンドに固定するものと手に持って演奏するものがある。
- ・左手で持つ。左手首を少し外側に回し、自分から見て小さい方が左、大きい方が右になるようにすると叩きやすい。
- ・左手のミュートの仕方でも音が変わる。小さい方を親指、大きい方を人差し指でミュートする。
- ・ベル同士をぶつけながらスティックで叩いてリズムを作るが、それが出来ない楽器もあるので注意する。



♪カバサ Cabasa

- ・ブラジルの楽器
- ・元はビリンバウに付いているひょうたん。現在はメタルカバサを使用する。
- ・側面を軽く持ち、柄を回して玉を本体にこすりつける。
- ・楽器を高く掲げ、振り下ろしながら回転させ、玉を軽く本体に触れさせるようにして音を出す。



♪スルド Surdo

- ・ブラジルの楽器。
- ・サンバの要の楽器。これが無いとサンバのリズムは作れない。
- ・首から下げて演奏する。
- ・片手でマセタ（マレット）を持って叩き、もう一方の手のひらでミュートをしたり、リムショットを入れたりする。



♪サンバホイッスル Samba Whistle

- ・ブラジルの楽器。
- ・本来はアピートと呼ばれる笛。
- ・元々は、南米にいる鳥の泣き声を真似た、木製擬音笛。
- ・十字の上の部分を咥えて息を吹き込み、音を出す
- ・左右に穴があいていて左右の2つともふさぐ、どちらか1つだけふさぐ、2つともふさがない、よっての3種類の音が出る。
- ・サッカーの試合などで使われている笛もアピートだが、これは音程が変わらないので、タンボリンと一緒に演奏する。

※ブラジルの楽器は屋外で演奏しながら行進したりフォーメーションを作るため、動きながら演奏出来るタイプがほとんどである。



♪ コンガ Conga

- ・キューバの楽器。
- ・大きい方が右で、小さい方が左。
- ・木製の胴体の上に動物の革を貼って、手で叩く。最近では強化プラスチックのものもある。
- ・世界的にコンガの名称で親しまれているが、コンガという名称は、本来はキューバのカーニバル音楽コンパルサで用いられるリズムを指すものである。
- ・大きさによってキント、コンガ、トゥンバドールと呼ばれる。
- ・キューバではこの楽器をトゥンバドールと呼ぶ。
- ・ブラジル音楽でも使われる。
- ・直接素手でヘッドを叩く奏法が一般的だが、マレットやスティックで叩く時もある。
- ・奏法はたくさんあり、
指全体でヘッドの端を押さえ込まないように叩くオープン
指先でヘッドの中心を弾くように叩くオープンスラップ
指先でヘッドの中心を弾くように叩き、ヘッドを押さえ込むクローズドスラップ
手のひら全体でヘッドを押さえ込まないように叩くベース
手の付け根でヘッドを押さえ込むヒール
指先でヘッドを押さえ込むトゥ
手のひら全体でヘッドを押さえ込むクローズ
指先でヘッドの端を押さえ込むモフ
などがある。



♪ ボンゴ Bongos Bongo Drums

- ・キューバの楽器。
- ・大きい方が右で、小さい方が左。
- ・コンガの縮小した太鼓だが、二個繋がっている。
- ・小さい方がマッチョ(スペイン語で男性)、大きい方がエンブラ(スペイン語で女性)と呼ばれる。
- ・ブラジル音楽では使われない。
- ・伝統的な演奏スタイルは椅子に座りエンブラを利き手側に股に挟んで素手で演奏する。
- ・素手では無くスティックを用いての演奏もしばしば行われる。
- ・4本指全体でスナップきかせて余韻がのこるようにするオープン、革の表面を押さえるようにするモフ、手のひらを少しすぼめてパンチのきいたアクセントのクラッシュがある。
- ・8分音符が4つ並んでいたら、1個目は、左手の手のひらの一番手首に近い付け根のところで叩き、2個目は、左手首を上げると同時に左指先で叩く。3,4個目も同様に叩く。



♪カウベル Cowbell

- ・キューバの楽器
- ・牛の首に付いている鈴。牛によってベルの大きさを変わっていたので、音によってどの牛がどこにいるのか判別するために、ヨーロッパの牧場で使われていた。
- ・ロックやラテンで多様されるが、大きさによってボンゴベルやサルサベルなど呼び方が変わる。キューバではカンパナ。
- ・手に持つか専用のホルダーに固定し、スティックで叩いて音を出す。
- ・いくつかの異なる大きさのものを並べて使用する場合がある。
- ・手に持つかホルダーに固定するかによって音色は異なり、手に持つ場合は持ち方によって音色を変えることができる。また、スティックの材質を変えることにより音色を変えることができる。



♪クラベス Claves

- ・キューバの楽器。
- ・キューバ音楽の要になる。
- ・クラベはラテン語で鍵の意味。マラカと同様に、複数の s が付いた。
- ・2本の棒状の木片を打ち合わせることで明るいカチカチとした音を出す。
- ・片方の手の親指の付け根、手のひら側の肉が盛り上がったところと他の4本の指先でつまむように真ん中あたりを持って、もう片方の手でもう一本を持ち、真ん中あたりを叩く。
- ・わかりにくければ動画を見るとよい。
- ・耳がキーンとする音が出れば成功。



♪ティンバレス Timbales

- ・キューバの楽器。
- ・専用のスティックを使って演奏する。これはドラムのスティックに似ているが、先端はチップ様の形状にはなっておらず、先端まで同じ太さである。
- ・カウベルやアゴゴ、シンバルなどもスティックで叩いて一緒に演奏する。
- ・革より金属の胴体を叩く奏法が主流(パイラ)
- ・専用のスタンドを使う。



♪マラカス Maracas

- ・キューバの楽器。
- ・マラカという木の実が乾燥したものを使っていた。二個で演奏するので、アメリカに渡ったときに複数のsが付けられてマラカスと呼ばれるようになった。
- ・玉に一番近い柄の部分を手差し指と親指で持って他の3本の指も軽く添える。
- ・楽器を軽く持って、急激に、楽器の球の半径ほど下げて、強く柄を握るようにすると「シャッ」という音が鳴る。

※キューバの音楽はステップを踏みながら演奏するタイプと据え置いて演奏するタイプに別れる。



- ♪ジャンベ ジェンベ ジンベ Jembe
- ・西アフリカ一帯で伝統的に演奏されている深胴の片面太鼓。
 - ・立って演奏する場合にはストラップを用いて肩からかけるが、座って演奏する場合には床に置き、全体をやや斜めにして鼓面の張られていない部分が開くようにする。
 - ・スティックを使わずに素手で叩く。
 - ・低音を出す時は手のひらを平らにして打面の中心をドンと叩く。このときベタッと手を太鼓につけない。



- ・中音を出す時には指に力を入れて、指を閉じた状態で叩く。このとき親指はグッと開いて太鼓には触れないようにする。



- ・高音を出す時には、指の力を抜いた状態で、中音とおなじように叩く。四本の指が同時に打面に当たるようにする。



- ・間違った叩き方で叩いていると複雑骨折することがあるので注意する。



♪シエケレ Shekere

- ・西アフリカの民俗音楽。
- ・片手に持って、振る、ももに当てる、もう片方の手に当てる、軽く上に投げて手で受け止める、手で叩くなど様々な奏法がある。



♪宮太鼓

- ・一本の木をくり抜いて、胴を膨らませた「くり抜き胴」の太鼓。
- ・顔の高さに太鼓を置き、太鼓を正面にしてバチで叩く（正面打ち）。
- ・バチ一本欠品。



♪締太鼓

- ・皮を胴に鉋打ちする太鼓に対して、皮を、胴を挟んで紐で結んで留める形の太鼓を「締太鼓」という。
- ・締太鼓は紐の締め具合により音の調整ができる。
- ・基礎練の叩き方と同様に、腕を大きく振り上げて、脱力を忘れないようにする。



♪桶胴太鼓

- ・板を張り合わせて竹のたがで締めた太鼓。
- ・太鼓の面を上にして打ち下ろす（平打ち）。



♪ドラムセット Drum-set ドラムス
Drums

- ・大小様々なドラムやシンバル等の打楽器を一人の奏者が演奏可能な配置にまとめたもの。
- ・通常椅子に腰掛けて演奏する。
- ・ドラムセットに組み込まれる打楽器類の種類や数は、奏者の好み・音楽的方向性・経済的事情等により多種多様。
- ・奏者の左から右に行くほど音が低くなるように並べるのが一般的。
- ・右足はバスドラムのペダルの上、左足はハイハットシンバルのペダルの上に置く。そして両手にスティックを持ち、左手はスネアドラムを、右手はハイハットシンバルを叩くのが基本の構え。



- ♪ハイハットシンバル Hi-hat Cymbals
- ・左足側、スネアドラムの直近に専用のスタンドで設置する。
 - ・主にリズムの刻みに使う。
 - ・スタンドを踏むとクローズハイハット、踏まないとオープンハイハットとなる。



- ♪スネアドラム Snare Drum
- ・奏者の目の前、膝の高さに専用のスタンドで設置する。
 - ・リズムからフィルインまで幅広く使われる。



♪バスドラム Bass Drum

- ・いわゆる大太鼓。
- ・奏者の右足側の床に横倒しに設置し、ペダルを踏んで演奏する。



♪タム トムトム Tom-tom

- ・小さい方がハイタム、大きい方がロータム。
- ・一般的にはバスドラムの上にタムホルダーを使ってセットする。



♪フットペダル Foot Pedal

- ・スプリングの弾性を上手く利用できるようになることが上手くなるポイント。
- ・かかとをペダルにつけた状態で演奏する、ヒールダウン奏法、かかとを浮かせた状態から足の重さを有効に使って踏む、ヒールアップ奏法がある。後者の方が、音量・スピードともに出やすい。



♪フロアタム Floor Tom

- ・奏者の右側、床の上に設置する。
- ・フィルインに使われる。
- ・時にはリズムを刻むときに使われる。
- ・ドラムとしてではなく、単体で使われる時もある。



- ♪クラッシュシンバル Crash Cymbal
- ・配置は奏者の好みによる。
 - ・曲中でアクセントを付けるときに使用される。
 - ・一般的にライドシンバルより小口径で薄い。



- ♪スティックケース
- ・中にスティックを入れておいて、ドラムを叩いているときにスティックが飛んだり折れたりした時にスペアのバチを使う。
 - ・ブラシなどに持ち変えるときにも使う。
 - ・下の写真のようにフロアタムにつける。



- ♪ライドシンバル Ride Cymbal
- ・主にリズムを刻む
 - ・フロアタムの上付近に設置する
 - ・クラッシュシンバルより厚手でサイズも大きい



- ・フロアタムだけでなく、スネアにつける場合もある。

スティック・マレット・ビーター・その他



♪太バチ・細バチ・ブラシ

- ・右から太バチ、細バチ、ブラシ。
- ・太バチは主にトレーニングで使い、細バチは基礎練、演奏用に使う。ブラシはドラムセットなどに使われる。



♪グロッケンマレット

- ・マレットによって音色が変わるので、曲調に応じてマレットを変える。
- ・指定がある場合にはそれに従う。
- ・白いのは基本使うマレット、黒色はソフトマレット (soft mallet)、金色は真鍮のマレット (brass mallet)。



♪ティンパニマレット

- ・2本ペアになっているものは、今は4ペアのみ。
- ・マレットによって音色が変わるので、曲調に応じてマレットを変える。



♪マリンバ・ヴィブラフォンマレット

- ・マレットによって音色が変わるので、曲調に応じてマレットを変える。



♪ビーター（トライアングル用）

- ・ビーターによって音色が変わるので、曲調に応じて変える。
- ・トライアングルだけでなく、ウィンドチャイム等にも使う。状況に応じて使う。



♪練習台

- ・基礎練をするときに使う。
- ・だいたいへその下に練習台がくるように高さを調節する。



♪ミュート（スネア用）

- ・スネアの余計な高倍音が気になるときに使う。
- ・貼り替えが可能で、ホコリ等で粘着力が落ちても石鹼を付けて水洗いすると復活する。
- ・求めるサウンドによっては複数枚使用したり、ハサミで切って使用する。
- ・タムにも使える。



♪レモ パティパッド Remo Putty Pad

- ・形を自由自在に変えられる、柔らかいラバー状のパッド。
- ・いつでも、どこでもスティック練習が可能。



♪小物台（新）

- ・小物を乗せて使う。



♪すべりどめ

- ・ドラムセットのハイハットが動いてしまわないよう、固定するために、ハイハットといすの下にひいて、自分の体重で抑える。



♪小物台（旧）

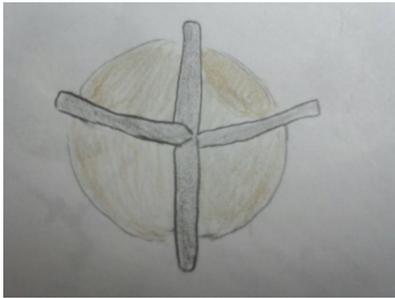
- ・小物を乗せて使う。
- ・小物台が1つでは足りなくなったときに使う
- ・壊れているので扱いに注意する。



♪シンバルポリッシュ

- ・シンバルを磨く
- ・正式名称はウェノール 超強力 シルバー磨き 金属磨きクリーム 50g 銀磨きクロスセット
- ・クロスで多目にシンバルに塗って伸ばし、少し放置する。その後円周に沿ってしっかり磨き、最後に別のクロスで乾拭きをする。
- ・匂いがすごいので換気する。

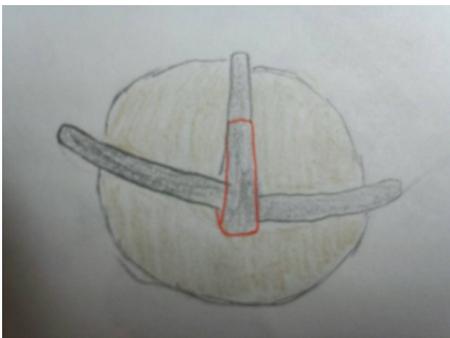
☆シンバルの紐のつけ方



1. ストラップの両端をそろえてシンバルに差し込み、裏面を上にして十字に開く。この時、しっかりと開くようにする。



4. 上側の紐を折り曲げ、先に曲げた右側の紐の下に差し込む。



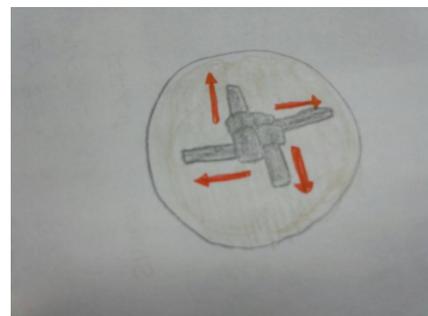
2. 手前の1本を折り曲げる。



5. 最後の1本を折り曲げ、最初に曲げた紐をまたいで、3番目に曲げた紐の下に差し込む。



3. 右側の1本を折り曲げる。この時、先に曲げた紐が上にくるようにする。



6. 織り込んだ4つの紐の先を引っ張り、しっかりと締めあげる。

※間違った結び方をすると、紐が切れやすくなり、演奏中にほどけて落ちることがあるので、ちゃんとこの結び方で結べるようにすること。

☆ティンパニのチューニング方法

合わせる音は

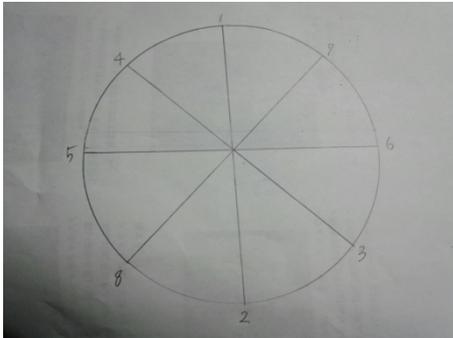
30~32 インチ…G

28~29 インチ…A

25~26 インチ…D

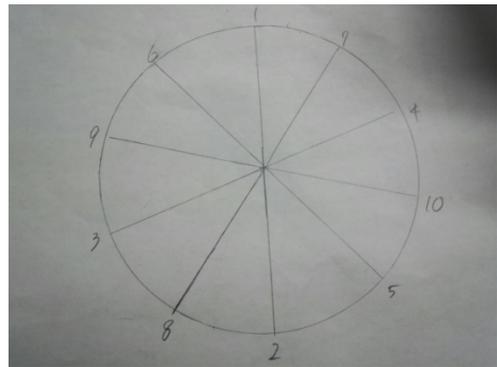
22~23 インチ…E

に設定すると他の音でも差が少なくチューニングできる。



図の順番で対角線上に調整ネジを締めていく。締めると音程は高く、緩めると音程は低くなる。一回で回す角度は時計の短針で2時間分くらい。はじめはチューナーを使い、だいたいあってきたら耳を使って合わせる。

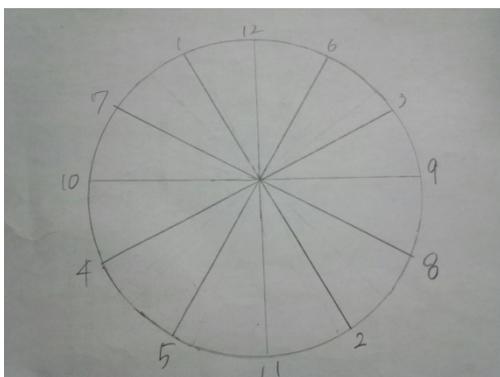
☆バスドラのチューニング方法



図の順番で対角線上に締めボルトを締めていく。合わせたい音程より高ければボルトを少しずつ均等に緩めてバスドラの音程を下げ、合わせたい音程より低ければボルトを少しずつ均等に締めてバスドラの音程を上げる。

☆スネアドラムのチューニング方法

響き線を外す。



図の順番で対線上に締めボルトを締めていく。1/4~1/2回転ずつ回して均等に張る。音程が一定になったら響き線をつける。